

安心して暮らしつつづけられる新潟市へ 全力

●「シニア半わり」(高齢者のバス運賃半額制度)が実現

9月12日から、65歳以上の方のバス運賃が半額になる「シニア半わり」制度がスタートしました。半わりカードの交付は11月末現在で2万6千人を超えています。

渡辺有子議員は、高齢者の外出支援と健康増進のため、バス運賃の軽減制度をつくるよう繰り返し求めてきましたが、ようやく実りました。

●曾野木市営住宅の跡地活用で前進

曾野木市営住宅跡地の活用をふくむ曾野木地区の公共施設のあり方について、地域のみなさんと市・区役所と一緒に考えるワークショップが始まり、活発な意見が交わされています。

早期の実現が地域のみなさんの願いです。渡辺議員は、着実に実行されるよう区長に申し入れるなど力をつくしています。

●江南区の福祉バス使用の継続を

これまで、区民が「高齢者や障がい者の団体の研修活動の送迎」に使用できた福祉バスは、「廃止せずに継続を」との声が強くなることから、昨年につづき区長に要望しました。

区長は「継続できないが、民間バスの借り上げ補助を検討している」とのことでした。利用しやすい制度となるよう働きかけていきます。

●放射性汚泥の早期撤去を

阿賀野川・信濃川浄水場にある放射性汚泥(高度放射性汚泥を含む)の撤去の要望については、市として「国・県に早期処分を強く求めていく」との回答がありました。



江南区長に要望書を手渡す渡辺議員



「読売新聞」より

「介護殺人や心中171件」
「高齢夫婦間が1割」
「月4回以上利用した場合、現行サービスと同程度の収入となるよう単価を見直した」と答弁しました。

新潟市は来年度から新総合事業を実施します。要支援1、2の高齢者の訪問介護とデイサービスを介護保険からはずし、市の事業に移行することになります。

渡辺議員は12月議会でも、市の事業に移行後もサービスの質を維持すべきだと、市の見解をただしました。市は「当面の間は、利用者が現在のサービスの継続利用を希望する場合には、『現行相当サービス』を利用できるように運用していく」と答えました。

渡辺議員は、「現行相当サービス」といっても、報酬単価が「月額包括報酬」から1回当たりの単価に出来高払いとなるため、事業者にとって減収となりサービス提供の持続が困難になると指摘し、見直しを求めました。これに対し、市は「月4回以上利用した場合、現行サービスと同程度の収入となるよう単価を見直した」と答弁しました。

新総合事業に移行後も介護サービスの質を落とすなと追及



渡辺有子

渡辺有子議員は、市民の切実な声をとりあげて議会質問するとともに、地域のみなさんとともに市役所や区役所に働きかけ、要望の実現に力をつくしています。

臨時保育士の待遇改善、学校給食の無料化を

公立保育園の臨時保育士の任期は最長でも1年で、再度採用されても新たな任期での採用になり、経験年数に応じた賃金単価が設定されていません。

渡辺議員は、勤続年数が5年～10年の臨時保育士が172人、10年以上が135人にのぼる実態も明らかにし、経験加算を導入するなど市独自で早急に待遇改善を行うべきだと市に求めました。福祉部長は「処遇改善については、経験加算も含めて引き続き検討していく」と答弁しました。

また、加速化する少子化、子どもの貧困などの対策は急務であり、地域社会全体で子育てを支えるという観点から学校給食を全員無料にすることが望ましいが、早期に実施できないのであれば、まずは要保護・準要保護(就学援助)世帯から無料化すべきだと提案しました。市側は「厳しい財政運営が続いており、総合的に検討する必要がある」と、財源問題を口実に子育て支援に消極的な姿勢を改めて示しました。



スクールランチ方式の中学校給食について視察する渡辺議員(中央)

